令和４年度　第１回　研究・経営評議会　議事要旨

１．日　時：令和４年６月９日（木）16:00～18:00

２．場　所：日本医療研究開発機構 201 会議室・Web 併用開催

３．出席者：
（委　員）
千葉議長、金倉委員、上村委員、鹿野委員、昌子委員、白髭委員、諏訪委員
（事務局）
三島理事長、城理事、渡辺執行役、難波統括役、永井経営企画部長、渋川総務部長、藤本経理部長、岩本研究開発統括推進室長、阿部研究公正・業務推進部長、塩見実用化推進部長、小賀坂国際戦略推進部長、丈達創薬事業部長、長谷医療機器・ヘルスケア事業部長、渡辺再生医療・細胞治療・遺伝子治療事業部長、岡田疾患基礎研究事業部長、梅田シーズ開発・研究基盤事業部長、丹藤革新基盤創成事業部長、須藤経営企画部次長、樋口研究開発統括推進室次長　他

４．議事
１．先進的研究開発戦略センター（SCARDA）について
２．ＡＭＥＤの自己評価（令和３年度）について
３．その他

５．議事の概要
事務局より開会する旨の発言があり、出席者の報告、三島理事長の挨拶の後、委員の互選によって千葉委員が議長に選任され、議事に入った。

【議事１．先進的研究開発戦略センター（SCARDA）について】
事務局より資料２を基に説明を行った。
委員からは、以下のようなコメントがあった。

○ ワクチン開発をシステマチックに行うとの発想において、この取組は素晴らしいが、実用化の出口を考えると、研究対象が膨大であり、その中からとなると非常に確率は低くなる。そこで、研究の実効性を上げるためにはいち早く絞り込みができる目利き力を備えた体制の構築が重要である。

○ 対象とする重点感染症をワクチンの新規モダリティの研究者たちにいち早くフィードバックし、それぞれの感染症に適したモダリティをピックアップできることが望まれる。

○ 優れたアカデミアの方々にも多く参画頂き、状況を迅速に捉え、より最適な

ワクチン開発につながるように、例えば、個々の技術のみならず、それらの技術の組み合わせに関する提案をいただくなど、サイエンティスト目線での指摘を頂くことが重要である。

○ 目利き人材は重要だが、その育成、確保には時間を要するため、国内外の関係機関とのコミュニケーションを密にして、いち早く技術動向の情報を入手したり、共同開発に持ち込むなどの検討も必要である。

○ 新しい研究を進める上では、裾野を広げることが重要であるため、大型予算の公募だけでなく、若手の方も応募しやすい予算規模の公募を行うことも望まれる。

○ 技術と技術の組み合わせにより可能性が広がるケースもよく見受けられるため、そのための目利きや橋渡しの役割も担っていくことが重要である。

【議事２．ＡＭＥＤの自己評価（令和３年度）について】

事務局より資料３、４を基に説明を行った。

委員からは、以下のようなコメントがあった。

○ 評価指標の中に、インパクトファクター５以上の雑誌の論文掲載数があるが、項目によっては、大幅に目標を超えてしまっており評価指標としては馴染まないように思えるので次期に向けて見直す必要があると考える。

○ 創薬ベンチャーエコシステム強化事業におけるベンチャーキャピタルの役割は非常に重要で、特に創薬ベンチャーを見出す能力が求められる。そのため、厳しい目で選定頂きたい。

○ ゲノムの基盤整備については、非常に充実してきていると感じているが、欧米などと連携しデータがさらに充実すると、基礎研究の進展に寄与し、臨床応用にも繋がると考える。

○ ゲノムデータについては、今後 AI を使ったデータ解析の研究も出てくると思うが、そういう研究の裾野を広げるためにも、ゲノムデータを自由に、オープンに使えるように、個人情報保護法などのルールの見直しについて政府と共に AMED としても引き続き議論、検討頂くことが望まれる。

最後に、三島理事長より、AMED は、ファンディングエージェンシーとしていかに付加価値を付けられるのか、常にそれを考え目指していく方針の下、頂いたご意見も踏まえ、しっかり取り組んでいく旨を発言した。

以上をもって議事は終了し、議長より閉会する旨の発言があった。